



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2003 Number 1

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

R.Y. Osamura, M.D. (03)
Tokai University

PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)
Jikei University

PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)
Showa University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

T. Manabe, M.D. (03)

Kyoto University

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)

Kyushu University

Y. Kato, M.D. (04)

Cancer Institute

K. Mukai, M.D. (04)

Tokyo Medical University

H. Hashimoto, M.D. (05)

University of Occupational and
Environmental Health

S. Nakamura M.D. (05)

Aichi Cancer Center

COMMITTEE CHAIR

Education

N. Nemoto, M.D. (03)

Nihon University

Finance

H. Yamabe, M.D. (03)

Red Cross Wakayama Medical Center

Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University



Christopher D. M. Fletcher教授

2003年・年頭のご挨拶

会長 長村義之

会員の皆様、2003年もすでにひと月たっておりますが、良いスタートを切られたことと存じます。本年も宜しくお願い申し上げます。

IAP日本支部の、今年度の国際活動は1月21日より23日までタイのバンコクで開催されましたthe 3rd Asia Pacific IAP Meetingで、始まりました。参加約20カ国を数える国際色豊かな会議でした。日本支部会員の先生にも、シンポジウムの司会、演者など積極的に参加・協力していただきました。この会は、今後アジアにおける学術交流の主軸として期待できるものと思います。

今年度の、IAP日本支部の活動としては、3月22日より28日まで米国ワシントンDCで開催されるUSCAPへの参加、6月20日—22日までの第4回Surgical Pathology Update(最近SPUと呼ばれてきているようですが)、10月31日から11月1日まで韓国で開催される日韓スライドカンファレンス、そして11月22日(日本病理学会秋期大会の翌日)に行われる恒例の教育シンポジウム、スライドセミナーなどが上げられます。

SPUは、毎年来られるDr. Steven Silverbergと今年はDr. Chris Fletcherをお招きいたし、おなじみになりました湘南国際村において2泊3日の合宿で行われます。この会は、半数以上の参加者の方が毎年参加されているという状況です。今年も、楽しみながら病理診断の国際的なdiscussionが出来るものとの楽しみにしております。

国際情勢が極めて不安定な感をうける毎日が続いていますが、IAPを通じてPathologyを共通の言語として「近隣諸国を大切にし、国際的に大いに切磋琢磨」しつつ医療の向上に貢献することはすばらしいことだと思います。

会員諸氏の、2003年の益々のご活躍を祈念いたすとともに、IAP日本支部の発展のためのご尽力をお願い申し上げます。



Surgical Pathology Update (SPU) 2003

日時：2003年6月20日（金）から22日（日）

場所：湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町）

テーマ：「子宮体頸部腫瘍と軟部腫瘍」

Faculty : Steven G. Silverberg教授 (Maryland大学)

Christopher D. M. Fletcher教授 (Harvard大学)

橋本 洋教授 (産業医科大学)

森谷卓也助教授 (東北大学)

Surgical Pathology Update (SPU) 2003参加募集

IAP日本支部では国際的基準(Global standard)に基づく病理診断医(Surgical Pathologists)の育成と米国を中心とした外国の著名な病理医との交流をめざすことを目的に、全国から希望者50名を募り2泊3日の合宿(湘南国際村センター、神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39)により、米国から招聘した専門分野の講師および日本側のFacultyと共に講義実習を行うSPUを2000年から行っています。

今年の日程は6月20日（金）から22日（日）で、今回のテーマは「子宮体頸部腫瘍と軟部腫瘍」で、Facultyは毎年のMaryland大学のSteven G. Silverberg教授、Harvard大学/Brigham and Women's HospitalのChristopher D.

M. Fletcher教授、産業医科大学の橋本 洋教授と東北大
学の森谷卓也助教授にお願いしています。なお、社団
法人日本病理学会の後援を受けており、認定病理医の
更新に10単位が得られます。参加費は45,000円（IAP会
員）で、非会員は55,000円とします。会員の参加費の適用
はSPU2003へ申込の時点では会員であることを条件に
します。この参加費には、宿泊費、会場費、食事代、
事前の病理ガラススライド配付、当日のハンドアウト
などを含みます。なお、合宿中に開かれる懇親会の費用
は参加希望者に別途支払って貰います。

毎年SPUは大変好評で、今回も多数の希望者が予想
されます。例年は3月末が締め切りで、定員を超えた
場合は抽選とし、4月中旬に参加確定の連絡をしまし
たが、これでは予定が立てられないとの苦情が多いの
で、今回から先着順に参加確定のお返事をしていこう
と考えます。それで定員になり次第、締め切りたいと
考えます。事務局としては定員一杯の先生方にこの機
会をご利用されることを望んでいますが、開催寸前に
ドタキャンされる先生もいらっしゃいます。それで、
空席を作らないため順番をつけて補欠のリストも作ろ
うかと考えています。スライドセットとハンドアウト
が余れば、これも優先的に有償でお譲りしようと思
います。

参加希望者は、SPU 2003 参加希望、氏名（英語も）、
年齢、性別、所属（英語も）、連絡先（住所、電話、
FAX、e-mail）、IAP日本支部会員か非会員を明記の上、
ファックスかe-mailで申し込んで下さい。連絡はFAX：
042-996-5193、e-mail：matubara@cc.ndmc.ac.jp です。IAP
日本支部常任幹事：松原 修（防衛医科大学校）宛に

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
**The 3rd IAP Asia Pacific Meeting
(Bangkok)に出席して 会長 長村義之**

表記の会議は、平成15年1月19日より23日まで、
Dr.Thiti Kuakpaetoon会長のもとタイのバンコクThe Dsuit
Thani Hotelで開催された。これまでJapan-Korea-Hong
Kong-Australasia (JKHKA)として開催されて来たア
ジア-オーストラリアの学術集会が名前を変えて、the
3rd Asia-Pacific IAP Meetingと変更されています。
わが国からも、IAP日本支部会員がシンポジウムな
どのオルガナイザーとして参加され、本大会を大いに
盛り上げた。本大会の母体はJapan, Korea, Australasia,
Hong Kong (JKAHK) Joint Meeting of Pathologyであり、
2回の開催は4カ国に限られていたが、2000年のIAP
Nagoya 2000の際にタイが参加を希望しそれを機会に次
回をthe 3rd Asia Pacific IAP Meetingと命名し開催される



ことが決定された。今回の大会も、これらの諸国に加
えマレーシア、シンガポール、インドネシア、中国、
フィリピンなど多数の参加者が見られた。また、米国
からも数名の演者が招聘されていた。大会は、
Precongress seminarでMalignant lymphomaのSpecial course
から開始された。3日間のプログラムは、シンポジウム
"Pulmonary pathology", "Diagnostic Immunohistochemistry", "Breast pathology", 一般口演、ポ
スター発表、Slide sessionなど多岐にわたるものであつた。ランチョンセミナーは、GISTについて病理と臨床
の講演があり、アジアにおいて多くの病理医がGISTに
興味を抱いている様子がうかがえた。

真冬の日本から、一挙に真夏のバンコクへ飛び、タイ
IAPのメンバーの暖かいホスピタリティーを楽しみ
つつ、23日夜散会した。24日には、一部の日本から
の参加者は、Thai-Japan Cytology Workshopに参加する
ためHua Hinに移動した。

次回 the 4th Asia Pacific IAP Meeting は、2005年に
Beijingにて開催される予定である。

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

第9回タイ・日本細胞診ワークショップ開催

**司話人：日本医大附属多摩永山病院病理部
前田 昭太郎**

第9回タイ・日本細胞診ワークショップがタイ国細
胞学会、日本臨床細胞学会後援のもとに、平成15年1月
24~26日にタイ国ファヒンで開催されました。総勢約
200名が参加しましたが、日本からは御家族を含めて
67名が参加し、会を盛り上げてくださいました。
The 3rd Asia Pacific IAP Meetingのpost congressという



形で開催されたこともあり、タイ国、日本の他、カンボジア、ラオス、シンガポール、マレーシア、韓国、オーストラリア、アメリカ、ドイツなど各國の方々も参加してくださり、国際色豊かに開催されました。講演、示説の多くが日本の発表者（医師、細胞検査士、医学部学生）で、そのレベルも高く、好評でした。

学会の合間には、参加者の皆さんは海水浴、観光、象乗り、スパ、マッサージ、ショッピングなどに出かけ、充実した時間を過ごされたようです。また、懇親会では各国の参加者の方々が一緒にカラオケ、ダンスをし、楽しい一時を過ごされ、国際交流を深めました。

来年は第10回の記念すべきワークショップですので、盛大に行われる予定です。開催地としてはチェンマイなど、開催予定日としては1月9~10日などが候補として挙げられています。多くの方々にご家族連れで参加していただきたいと思っております。決定次第、詳細を日本臨床細胞学会ホームページ (<http://www.jscc.gr.jp/index.html>) に掲載しますので、ご覧ください。なお不明な点に関しましては下記のメールアドレスにお気軽にお問い合わせ下さい。
[s-maeda@nms.ac.jp]



丸山・牛込先生を祝う会

2003年度第1回理事会議事録

日時：平成15年02月21日（金曜日）18：30-20：30

場所：グランドヒル市ヶ谷2F「鼓」

新宿区市谷本村町4-1、電話3268-0111

出席者：長村、牛込、諸星、真鍋、恒吉、加藤、向井、

中村、根本、山邊、松原、佐々木洋子（事務局）

下同、以下

丸山孝士先生にIAP日本支部功労賞

IAP日本支部の理事を平成8-10年度、会計監事を平成11年度、理事指名委員を平成12-14年度と、IAP日本支部の役員の職務を7年の長きにわたって務めて頂いた功績に対して、表彰式とお祝いの会を平成14年12月19日18：30-20：30に、東海大学校友会館「霞の間」において行った。



牛込先生IAP本部会長就任を祝う会

牛込先生、現在のIAP日本支部の前会長が、AmsterdamのIAP International CongressにおいてIAP本部の会長に就任されました。このことは前のプレティンでも報告し、ご就任挨拶も掲載させて頂きました。

丸山先生と牛込先生の両先生ご夫妻のお祝いの会を一緒に開催しました。都内近郊の役員に声をかけ、鈴木（実）、長村、諸星、根本、加藤、松原が夫妻で参加し、楽しいお祝いの会を持つことができました。



議題に
報告事項

- | |
|-------------------------------|
| 1. 平成15年度 IAP日本支部役員体制について |
| 会長 長村義之 (東海大学総合診療学系病理診断学) |
| 前会長 牛込新一郎 (京浜予防医学研究所診断病理七) |
| 次期会長 諸星利男 (昭和大学医学部病理学第1) |
| 常任幹事 松原 修 (防衛医科大学校病理学第2) |
| 理事 真鍋俊明 (京都大学医学部附属病院病理部) |
| 恒吉正澄 (九州大学医学部病理学第2) |
| 加藤 洋 (癌研究会癌研究所病理部) |
| 向井 清 (東京医科大学病理学第1講座) |
| 橋本 洋 (産業医科大学病理学第1) |
| 中村栄男 (愛知県がんセンター遺伝子・
病理診断部) |
| 教育担当 根本則道 (日本大学医学部病理学) |
| 会計監事 山邊博彦 (日赤和歌山医療C病理部) |

＜中村栄男新理事、橋本 洋理事再任の紹介＞

2. 平成15年度 IAP日本支部理事指名委員会について
委員長 牛込新一郎
副委員長 鈴木 実(協友会ケアセンター八潮)
委員 社本幹博(藤田保健衛生大学総合医科学
研究所病態細胞学)
山邊博彦
森 茂郎(東大医科学研副所長・人癌病因
遺伝子分野)

遺伝子

3. 2003-2004年の事業計画

1) 支部総会 東京都医業健康保険会館
(東医健保会館)
東京都新宿区南元町4番地、電話3353-4311
(JR総武線の信濃町から徒歩5分)
11月22日（土曜日）

2) 教育セミナー開催 同上
教育シンポジウムとスライドセミナー

3) SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2003開催
湘南国際村、06月20-22日（金一日曜日）

- 4) IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞
 - 5) IAP 日本支部・海外特別功労賞
 - 6) A News Bulletin発行、4回
 - 7) 日韓を始め国際IAP支部との友好関係事業
日韓スライドカンファレンス
10月31日（金曜日）午後3時からBone and Soft Tissue
11月01日（土曜日）午前9-12時にIAPのもの、
場所はSeoulでCatholic Medical School
特別講演のspeakerを日本側から1人推薦依頼あり
 - 8) IAP本部との緊密な連係
 - 9) Lab Invest, Mod Patholの安価購入の仲介
 - 10) WHO分類の安価購入の仲介、日本支部会員Japanese Division of IAPであることと、会員番号（名簿に載っている通りです）を記入すると、75USDが50USDとdiscountされます。
4. 種々のAward(賞)の進捗状況
- 1) IAP 日本支部・功労賞（長年のIAP日本支部の発展への貢献）
赤木忠厚先生に、02年11月15日
丸山孝士先生に、02年12月19日
 - 2) IAP 日本支部・病理診断教育賞（長年の病理診断学の教育への貢献）。これについて、どのように具体化するかを、橋本委員長、山辺副委員長で詰めてもらうことになっている。
 - 3) IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞
これは去年3人に。順調に動き出している。真鍋審査委員長、山辺副委員長。
 - 4) IAP 日本支部・特別功労賞（長年のIAP日本支部の発展への貢献）
海外関係：これは去年、Amsterdam Congressの時、Dr. Jack P. StrongとDr. Robin Cookeに。今年は福岡の病理学会の時、Dr. Moon Ho Yangに予定。第1日目の夜、評議員会の後に、おそらく8時頃から、開催の予定です。会場は恒吉理事に探してもらっている。オーストラリアのDr. Phillip Allenと香港のDr. Joe Leeは機会をみて、表彰する予定。
 - 5) IAP 日本支部発足40周年記念特別賞（発足初期IAP日本支部の発展に貢献）：これは、石川、福田、遠城寺、鈴木、町並先生方へ贈った。これは、これで終わりとする。
 5. Laboratory Investigation and/or Modern Pathologyの雑誌の購入
 6. 2003年度の教育シンポジウムとスライドセミナーのテーマアンケート実施
 7. 関連の国際学会
 - 1) USCAP Chicago 2003年03月22日～28日 Washington, D.C.
 - 2) 日韓スライドカンファレンス 2003年10月31～11月01日 Seoul
 - 3) 日中合同スライドセミナー 2003年9月
 - 4) APASPはBaliで September 2-5, 2003
 8. その他
 - 1) The 3rd Asia-Pacific IAP Congress : (長村会長)
2003年01月21-23日にBangkok, Thailandで。
 - 2) 次回のAsia-Pacific IAP Congress 北京

審議事項：

1. 教育シンポジウムのテーマの検討：
アンケートの集計結果（添付書類参照）を参考に審議し、「上皮内癌」関連を取り上げることとし、moderatorを恒吉理事と諸星次期会長にお願いした。
2. スライドセミナーの新コースについて：
アンケートの集計結果（添付書類参照）を参考に審

議し、「消化管の炎症性疾患」と「皮膚の炎症性疾患」を取り上げることになった。前者に滝沢登一郎先生（東京医科歯科大学）後者に木村鉄宣先生（札幌皮膚病理研究所）がnominateされた。

3. 教育セミナーの会場について：東京都医業健康保険会館（東医健保会館）
4. 種々のAward(賞)の具体的な選考方法などの検討：（橋本委員長、山辺副委員長）
5. Surgical Pathology Update 2003の進捗状況：（長村会長）
テーマは、「子宮体部頸部と軟部腫瘍」で、FacultyはSilverberg教授とDr. Chris Fletcher (Brigham & Women's Hosp.)、日本側のカウンターパートは森谷（東北大）と橋本理事を予定。日程は平成15年06月20-22日（金土日）、場所は同じ湘南国際村センター。
6. Surgical Pathology Update 2004の進捗状況：（長村会長）GYNとLymph node pathologyがmain themeで、Dr. Jaffeが来日予定。後者の日本側のcounter partは中村栄男新理事がnominateされた。
7. 日韓スライドカンファレンス（2003年11月01日Seoul）の時に、韓国側からの要望は日本側から特別講演の講師を出して欲しいとのことであった。審議の結果、下里幸雄先生がnominateされた。
8. その他：
 - 1) 会員資格の見直しのことが審議された。若い病理医に負担をかけずに、会員勧誘もしていきたいこと、病理経験が5年以上はハード過ぎないか、Junior会員制度を作つてはどうか、など。松原の方で、いくつか案を考えることになった。
 9. 次回の理事会（第2回）は04月23日のお昼

添付書類：

#教育Symposiumのアンケート結果

<技術的なテーマ>

免疫：Diagnostic immunopathology

Immunohistochemical diagnosis : usefulness and pitfall
治療に直結した病理診断：免疫染色を中心に、現在と未来
病理診断に有用な新しい抗体の活用法と注意点
免疫染色の日常診断への用い方
遺伝子：病理検査でのPCRの有効性
病理診断に有用なPCR法の活用法と注意点
パラフィン切片からの遺伝子検索、例：マイクロダイセクション
パラフィンプロックを利用した遺伝子診断（前田盛、広橋説雄、中村栄男）
その他：迅速診断の精度管理・精度向上
消化管腫瘍 EMR材料の取り扱い 断端侵襲・sm浸潤程度の判定
抗原特異的T細胞の新しい検出法と病理一感染症、腫瘍免疫等への応用
臨床検査に占める病理学（形態学的検査）一血液像、骨髄像、尿沈査、微生物などのかかわりー
<概念に関するテーマ>

ANCA関連血管炎
膠原病の最近の進歩
Paraproteinemia
内分泌病理の新知見
病理学と法医学の接点 一特に解剖に対する考え方のちがいー
病理学と法医学（あるいは法律）
放射線診断学と病理学の対比 一画像診断との対比（臓器別）ー
肺神経内分泌腫瘍の診断基準と問題点（亀谷 徹）

筋線維芽細胞およびその腫瘍の概念について
上皮内癌の捉え方 (PIN, VIN, BIN)
病理解剖 (モデレーター:森永正二郎)
各臓器におけるnew entity
家族性腫瘍をめぐる諸問題 (モデレーター:加藤 洋)
Protein folding diseaseの概念と病理
プリオントウ病の病態機序と分子病理学
21世紀の病理診断:形態学の将来 (モデレーター:
坂元亨宇)
<診断に関するテーマ>
甲状腺濾胞癌の診断と問題点
種々の症候群に伴う甲状腺病変
乳腺腫瘍診断の現状と未来
皮膚の炎症性病変:病像の経時的变化
炎症性皮膚疾患の生検診断
心臓血管疾患の病理
悪性リンパ腫 分子生物学的知見、新WHO分類と病
理診断と治療
神経内分泌腫瘍の病理
Barrett食道とBarrett食道腺癌
炎症性腸疾患
肝炎:最近の展開
前立腺診断をめぐる諸問題
生殖器腫瘍
TNM分類について
TNM分類と取扱い規約の比較
WHO Blue Bookの目指すもの
癌治療効果判定と病理のかかわりについて (特に画
像での評価と病理組織学的評価の関連性等)
吉田富三誕100年記念シンポ
形態変化として表れる遺伝子変化:組織診断・細胞
診断

#新規Slide Seminar希望のアンケート結果

- 甲状腺の病理
 - 軟部腫瘍
 - 乳腺疾患
 - 皮膚炎症性疾患
 - 小児腫瘍
 - 子宮内膜生検標本の病理
 - 肝の炎症性疾患
 - 脾の病理
 - 心筋生検の病理
 - 心血管疾患の病理
 - 神経病理
 - 口腔病理
 - 歯原性腫瘍の病理
 - 腎・尿路腫瘍の病理
 - 骨関節の非腫瘍性疾患の
 - 消化管の非腫瘍性疾患

以上、多数のアンケートによるご回答、ご意見
有り難うございました。アンケートの時期でなくとも松原、
根本にご意見をお寄せ下さい。

Scientific Programme of The Third IAP Asia-Pacific Meeting, Bangkok, Thailand, 2003
Main Meeting (日本からのものを重点的に掲載)

Main Meeting (日本からのものを重点的に掲載)
21 January 2003

0830-0900 Opening address

0900-1130 Hematopathology

1130-1230 Free paper presentation Lymphoma cells in the ilio-lumbar

Langerhans cells in the iliac lymph nodes of rats by Prof. Mikihiko Shamoto

rats by Prof. Mikihiro Shamoto
1330-1600 Pulmonary Pathology

1550-1600 Purimontaly Pathology mysteries in lung pathology" C

Mysteries in lung pathology. S.
and Eugene J. Mark

L-5 Prof EJ Mark: Solving the m

focusing on a few simple and di-

L-6 Dr. Belinda Clarke: Acquired cystic lung disease, covering mysterious and fascinating cases.

L-7 Prof Bryan Corrin: Some alveolar filling defects.

L-8 Prof Sang-Ho Cho: Pathogenesis of idiopathic pulmonary fibrosis: Bleomycin induced pulmonary fibrosis.

L-9 Assoc Prof Yukio Nakatani: Seeking for tumorigenesis of pulmonary blastoma: from mint into wnt.

L-10 Assoc prof Anucha Tangthangtham: Solving the mysterious cases of undertermined origin: lung or mediastinum.

L-11 Prof Toyohary Yokoi: Pulmonary pathology in bone marrow transplant recipients.

L-12 Prof Osamu Matsubara: ANCA-related lung lesions - is interstitial pneumonia really accompanied
1630-1730 Slide discussion of lung pathology and hematopathology

Case 1 and 2: Discussant: Dr. Angela Chong Pek Yoon, Case owner: Dr. Osamu Matsubara

22 January 2003

- 0800-1130 Gynecologic Pathology Symposium "Glaandular lesions of the uterine cervix"

L-14 Prof. Tsunehisa Kaku: Invasive adenocarcinoma of the cervix.

L-17 Prof. Shingo Fujii: Clinical aspects of preinvasive and invasive glaandular lesions of the cervix.

1130-1230 Free paper presentation

O-9 Dr. Ken-ichi Nishiyama: Influence of mucinous component on biological behavior in colorectal adenocarcinoma: Mucinous carcinoma versus adenocarcinoma with mucinous component.

1330-1430 KUB Pathology

L-19 Dr. Mitsuru Kinjo: Fat mucosal lesions of the urinary tract, with reference to the clinical consideration.

1430-1600 Telepathology

1630-1730 Slide discussion

23 January 2003

0800-1130 Diagnostic Immunohistochemistry
Chairmen: Prof. Robert Y. Osamura, Anthony S-Y Leong and Min W. Lee.

L-27 Prof. Robert Y. Osamura: Neuroendocrine markers and their application.

11030-1130 Case studies.

1130-1230 Free paper presentation

O-14 Prof. Motoshige Kudo: A hypothesis on the pathogenesis of leptomeningeal carcinoma-with special reference to the vascular route of the choroidplexus and circumventricular organs.

O-15 dr. Maria Mernyei: Molecular characteristics of GIST and possibility of other clinicopathological application.

1230-1330 Luncheon Symposium: GIsts: Pathology and management.

1330-1600 Breast Pathology Symposium "Recent advances in breast cancer" Chairman: Prof. Anthony S-Y Leong

L-32 Assoc Prof Tokuuya Moriya: Hormone receptor analysis on surgical pathology of the breast

1600-1630 Closing ceremony



Seated-B. Corrin, EJ Mark, S-H Cho, Standing-O. Matsubara, B. Clarke, Y. Nakatani, T. Yokoi (Pulmonary Pathology Session)

「JAP 日本支部・病理診断学術奨励賞」公募

IAP 日本支部では本年の「IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞」を公募します。

記

賞の名称：IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞

受賞資格：日本の医療機関に勤務する若手（論文掲載時点で40才未満）の病理医（IAP日本支部の会員か否かは問わない）

